



# 乾杯ノ練習 2019

10.22.TUE - 12.22.SUN  
会場：秋田市中心市街地各所にて

## 未来の生活を考えるスクール

機会の提供

既存の分野を超えて活動する人や新しい分野を創っている人たちをお招きし、トークや上映会などを実施する「未来の生活を考えるスクール」。地域の歴史や今日を知り、新しい知識や視点を獲得することで、みんなで今よりちょっと先の生活(=未来の生活)について考えてみましょう。

第2回

食べものを知ろう

### 映画『よみがえりのレシピ』+トーク

2019年11月15日[金] 19:00-21:00 (開場18:30)  
会場：ルミエール秋田シアター2(秋田市東通仲町4-1 秋田拠点センターアルヴェ2F)  
トーク：渡辺智史(映画『よみがえりのレシピ』監督)  
定員：100名



©映画『よみがえりのレシピ』製作委員会

世代を超えて地域に受け継がれてきた在来作物は、品種改良された作物より収穫量が少なく病気に弱いため、市場にはあまり出回りません。そんな時代に、独自の料理法で在来作物の存在に光を当てた「山形イタリアン」「アル・クッチャーノ」の奥田政行シェフ、在来作物が地域再生の起爆剤になると確信している、焼き畑農法研究が専門の江頭宏昌先生、そして、手間を惜しまず種を守り続ける山形の農家の人たちが、彼らの活動を記録した映画『よみがえりのレシピ』を見て渡辺智史監督からお話を聞くことで、食を通じた地域の未来について思いを巡らせてみましょう。  
2011年作品。95分。山形国際ドキュメンタリー映画祭2011正式出品作品。  
公式ウェブサイト <http://y-recipe.net/>

第3回

### 演劇と教育 - 生きる方法を学ぶ -

2019年12月1日[日] 14:00-16:00 (開場13:30 | 途中休憩あり)  
会場：アトリオン3F 研修室(秋田市中通二丁目3-8)  
トーク：いしいみちこ(ドラマティチャー)  
聞き手：柚木恵介(アーティスト、秋田公立美術大学准教授)  
定員：100名



いしいみちこ  
撮影：南阿沙美



柚木恵介

いしいみちこさんは高校で演劇を教えています。「私の行っている演劇教育は、いわゆる俳優を養成することを目指してはいません。(中略)演劇を通して、高校生たちのコミュニケーション能力を高めていきたい。あるいは、自分の身体の可能性についてもっと知ってほしい。実生活でよりよく生きる方法を身につけてほしいと願って、この教育をやっています」と語るいしいさん。あらかじめ用意された正解はなく、ワークを通して生徒が自由に感じたり考えたりすることを大切にしています。ワークの後には「ふりかえり」をして、言語化し共有します。教科として演劇を教える先生は全国にまだ数人。限られた高校生だけが享受できるプログラムにしておくのはもったいない!先駆的な事例を学び、未来の教育と生活を探ってみましょう。※引用は「高校生が生きやすくなるための演劇教育」(立東会)から。

第4回

### ナリワイと生活 - 新しい生き方 -

2019年12月21日[土] 14:00-16:00 (開場13:30 | 途中休憩あり)  
会場：ヤマキウ南倉庫(秋田市南通亀の町4-15)  
トーク：伊藤洋志(仕事づくりレーベル「ナリワイ」代表)  
聞き手：柳澤龍(一般社団法人ドチャベンジャーズ代表理事/会長)  
定員：50名



伊藤洋志



柳澤龍

就職した会社で一つの仕事をすると働くのが常識となっている現代。実は、こういう働き方が当たり前になったのはここ70年ぐらいのことです。こうした働き方が始まる前は、一人ひとりが複数の技を身につけ、自分に必要なものは自分で工夫して作り、互いに協力し合っていました。伊藤洋志さんはこうした働き方に着目し、年間30万円程度の仕事「ナリワイ」を複数作り、生計を組み立てています。伊藤さんの活動を見て、新しいチャレンジをする人も増えています。大きな稼ぎはないけれど、技が身につく、仲間が増え、いざというときも自分たちで工夫して助け合える、こんな試みに未来の生活のヒントがありそうです。

## マチアルキ

秋田市中心市街地  
活性化協議会主催事業

地域  
連携



まちの歴史や今を見つめ、まちを歩くこと。  
秋田市文化創造交流館(仮称)開館後のまちの姿を思い描きながら、中心市街地に出かけてみよう。誰かと一緒に歩いてみると、まちについて話してみると、少しいつもと違って見えるかも。

### — まちあるきツアーをつくる

まちを歩きながら自分なりのまちの楽しみ方を開拓し、まち歩きツアーコースを考えるワークショップを開催します。新しくオープンした個性的なお店や、特徴的な風景やオブジェを探しながらまちを歩き、改めてこのまちを知りつつ、まちの中に新しいローカルな関係を生み出していくことを目指します。

2019年11月3日[日] 13:00-17:00

集合場所：秋田市民市場会議室(秋田市中通四丁目7-35)

アテンド：RAD-Research for Architectural Domain-

### — SPACE LABOをみに行こう

秋田駅前商業施設内にある空きスペースでプランを公開しているラボ・フェローに直接会って話を聞く「対話のスタディツアー」と、公開プランを巡る「鑑賞のガイドツアー」を開催します。

対話のスタディツアー 2019年11月10日[日] 14:00-16:00

鑑賞のガイドツアー 2019年12月15日[日] 10:00-12:00

集合場所：秋田公立美術大学サテライトセンター(秋田市中通二丁目8-1 フォンテAKITA6階)

### 申込方法(スクール・マチアルキ共通)

参加をご希望の方は、電話またはメールにて「アーツセンターあきた」まで下記の項目をお知らせください。定員に達した場合、受付を終了することがあります。※メールで申し込まれる際は、件名にご希望の企画タイトルをご記入ください。

- ①(代表者)氏名・ふりがな ②ご希望の企画タイトル(例:食べものを知ろう-映画『よみがえりのレシピ』+トーク)
- ③参加人数 ④電話番号 ⑤メールアドレス(お持ちの方)

申込先：NPO法人アーツセンターあきた TEL 018-888-8137 E-mail [info@artscenter-akita.jp](mailto:info@artscenter-akita.jp)

## はじまる!みんなで乾杯の練習

創造支援  
事業

2018年、秋田市文化創造交流館(仮称)の運営管理計画策定に向けてはじまったワークショップ「せばなるあきた」。4回のワークショップを経て、秋田市文化創造交流館(仮称)で実現してみたい「夢の企画」が参加したみなさんから提案されました。あれから1年。2020年秋の秋田市文化創造交流館(仮称)の開館を見据え、オープニングで挑戦・実践してみたい取り組みについて、アイデアを持ち寄り、ブラッシュアップや実現に向けて話し合う場として、「みんなで乾杯の練習」をはじめます。まずは、ピクニックで乾杯の練習。その後も、つながりの輪を少しずつ広げながら、第2回、第3回とまちのいろいろな場所を使って乾杯の練習を続けます。第2回目は12月に開催予定。詳細は決定次第、アーツセンターあきたのWEBサイトにて公開します。2020年秋の本番の乾杯に向けて、さあ練習をはじめましょう!

### 「第1回 ピクニックで乾杯の練習」

2019年10月22日[火・祝] 11:45-14:00

会場：千秋公園 二の丸広場(秋田千秋公園1)

※雨天時：にぎわい交流館研修室3(秋田市中通一丁目4-1)

参加費：100円/申込不要

第1回は、サンドイッチの具材を持ち寄りピクニック形式で、秋田市文化創造交流館(仮称)のオープニングに向けた話し合いをします。参加ご希望の方は、サンドイッチの具材になるものをご持参いただく、材料費100円(参加費とは別途)を当日お支払いください。



# SPACE LABO AKITA

ラボ・フェロープラン展  
11.3.SUN - 12.22.SUN

会場 秋田駅前商業施設空きスペース

ポスター展 応募があった14件のプランをポスター形式で展示します  
11.3.SUN - 12.22.SUN

会場 フォンテAKITA 6階情報発信コーナー

ラボ・フェロー  
プラン公開

### 居村 浩平 | 目が合った人の真似をする

<パフォーマンス> 2019年11月3日[日]-11月9日[土]

会場 フォンテAKITA 6階情報発信コーナー、6階市民学習スペース外側、秋田市内各所

<記録資料展示> 2019年11月10日[日]-12月22日[日]

会場 フォンテAKITA 7階特設会場

私と目が合った人を対象にして、その人の表情、動作、ふるまい、口調などを真似する即興パフォーマンスを行う。パフォーマンス中は常に誰かを観察し、真似をし続け、その行為を映像やスケッチ、文章にしてアーカイブする。普段人びとが何気なく行うふるまいを、身体やその場所に落とし込みたい。また、このパフォーマンスの他に、秋田の地域性についてもリサーチしたい。暗黒舞踏を生んだ土方異や、その土方の故郷にある西馬音内盆踊りなど、秋田は「踊り」が生まれやすい文脈にある空間なのかもしれない。秋田の人びとと視線を交わすことをきっかけに、これまでは異なる秋田の踊りを生み出したい。

### 酒井 和泉 | 無いものねだりフェスティバル

2019年11月3日[日]-12月22日[日]

会場 秋田オーパ 5階特設会場

日常をせわしなく生きていくと、昔はあったはずの素敵なものがないとしたり、突然迷惑極まりないものが作られてしまったりすることに気づけない。人間サイズの「現在の秋田県ぬいぐるみ」をショッピングモールに設置し、来場者にはぬいぐるみの上に、秋田にあてて欲しいものがないと欲しいものを思う存分メモしてもらい、1日ずつぬいぐるみで秋田県をアップデートしていく。曜日や時間帯によって変わっていくような軽い願望も大切に「ほしい」と「いらぬ」を遊び感覚で考え、自分たちが秋田で幸せに暮らすために必要な行動を思うきっかけを作る。

### 熊谷 海斗 | 参加型オブジェ制作展示「木製幾何学パズル」

2019年12月7日[土]-12月15日[日]

会場 秋田駅ビル アルス 2階特設会場

来場者がパーツを選び任意の場所にはめ込むことで、大きさを増していくオブジェ「木製幾何学パズル」を展示する。バランス良く組み合わせるの、あえてアンバランスな形を選ぶの。参加者の選択によって、偏りやいびつさを含み面白みのある造形へと変化していく。来場者が造形に手を加え、また別の来場者によって前者が予想していた造形を打ち壊して新しい造形になる。日々、かたちを変えていく参加型オブジェの展示を通して、他人とのつながりの中にあるからこそ今の自分の選択肢があるのだと来場者に意識させる。SNSが台頭し、目には見えなかつたで人のつながりが普及していく中で、物質的な物を通して人のつながりを感じてもらいたい。

### 植村 宏木 | もの考-秋田-

2019年12月7日[土]、8日[日]、14日[土]、15日[日] 12:00-20:00 (12月15日は17:00まで)

会場 秋田オーパ 8階特設会場

秋田における風土や空気感、歴史や暮らしの中にある思考や感覚についてリサーチを行い、制作した作品を展示する。リサーチを通して秋田の土地における記憶や時間、空気、それらとともにある気配といった「目には見えないが知覚できるもの」について考察をする。本プランでの作品によって秋田という土地を感覚的に捉える場をつくりたいと考えている。

### 佐藤 拓実 | 秋田と北海道をつなぐ

2019年12月14日[土]-12月22日[日]

会場 フォンテAKITA 6階情報発信コーナー

私は北海道に生まれ育ち、主に北海道の歴史を題材としながら作品制作を行っている。その活動において、特に東北の諸地域と北海道とは長い歴史のなかで深い関係をもってきたことをたびたび感じていた。今回は蝦夷地を旅し秋田で没した旅行家の菅江真澄や、秋田を含む大坂-北海道間の各地を繋いだ北前船、アイヌを描いた平福穂庵・百穂親子などをヒントに、北海道との関係という視点から秋田にてリサーチを行い、その成果を発表する。秋田にあるという自分の「佐藤家」のルーツを訪ねることも目的の一つである。これらのリサーチを経て、これまであまり顧みられてこなかった秋田像、北海道像、日本像の輪郭の一部を描き出すことを目指す。

### 虻川 彩花 | 秋田から始まるファッション

～個人ブティックを訪ねて～

2019年12月14日[土]-12月18日[水]

会場 フォンテAKITA 6階市民学習スペース外側

秋田市内には多くの個人ブティックやリサイクルセンターが存在する。そのような店の個性的で特殊な販売形態に興味を持った。例えばリサーチを行うきっかけとなった「まるきょう」が作り出す空間は、現代に生きる私たちにあって、忘れていた大切な何かを思い出させてくれるような気がする。その正体を掴みたいと思った。そのためには、店員のおばちゃんたちがいる空間に私が入ることであるのか?何が生まれるのか?そのようなことに気を使いながらリサーチを進めたい。そして、秋田におけるファッションセンターの現代における機能を考え、秋田から新しいファッションのあり方を提案したい。

### 岡崎 未樹 | 「なくなった」ものを一緒に探しに行くプロジェクト

2019年12月13日[金]-12月15日[日] 12:00-20:00 (12月15日は17:00まで)

会場 秋田オーパ 8階特設会場

目に見えているものが「なくなる」と人は様々な悲しさに襲われる。しかしその「人」「物」「場所」を想い、考え、行動したという事実から、目には見えないけれど「ある」ものとして捉えられるのではないかと考えた。人口減少、空き家など秋田に暮らしていく中で「なくなる」を感じる。地元の方は「なくなった」ものに対して何を感じているのか、一緒に想い、考え、行動して目には見えないけれど「ある」ものを探してみたい。公開に向けて、住民へのインタビューにより収集したメッセージを何らかのものに届けよう。また、メッセージをくれた方がそれを空に放つ様子を記録撮影する等を予定している。

創造実験  
事業

秋田駅前に立地する3つの商業施設内の空きスペースを「クリエイティストスタジオ」と見立てて展開するプランを公募する「SPACE LABO」。応募のあった14組のプランをポスター展形式で公開します。さらに、その中から選ばれた「ラボ・フェロー」7組が、コーディネーターのサポートを得て、パフォーマンスや展示、リサーチ、滞在制作などのプランを展開。失敗を恐れずにやってみること、試してみること、その試行錯誤や実験性は完成された成果物と同じように豊かな時間を生み出すかもしれません。ラボ・フェローたちの挑戦にご期待ください。みなさまのご来場をお待ちしております。

秋田からはじめる新しい挑戦。